

BKD-61R

各種金型肉盛用 (SKD61 系)

BKD-61Rは合金工具鋼のSKD61に類似した成分を有した硬化肉盛用のティグ溶加棒です。その特徴は耐熱、耐摩耗、耐衝撃性にすぐれていますので耐久性を必要とする金型などの硬化肉盛用として最適です。

なお、肉盛のまま高い硬さを示すため機械加工は困難です。

用 途 打抜金型、プレス金型、鍛造金型、ダイカスト金型などの肉盛溶接。

作業要領

- ①一般に300℃以上の予熱が必要です。
- ②共金や硬化性の母材には、300～400℃の予熱と500～550℃の後熱および徐冷が必要です。
- ③通常金型材は高炭素鋼、低合金鋼など硬化性の材料が使用されますので、NTG-50RまたはLS-50で下盛を行なうと割れ防止に有効です。
- ④熱処理を行なう場合、焼なましは820～870℃から徐冷、焼入れは1000～1050℃から空冷して下さい。なお、溶接のままでは焼入れ状態です。

■溶加棒の化学成分一例 (%)

C	Si	Mn	Cr	Mo	V
0.38	0.93	0.40	5.19	1.21	0.82

■溶着金属の硬さ

条件		ピッカース (HV)	ロックウェル (HRC)	ショアー (HS)
溶接のまま	連続肉盛	530～600	51～55	68～74
	予熱・パス間 300℃	560～635	53～57	71～77

■製造寸法

棒径 (mm)								長さ (mm)	小包装質量 (kg)	大包装質量 (kg)
1.0	1.2	1.6	2.0	2.4	3.2	4.0	5.0	1000	5	20